

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

チュウゴクナシキジラミの県内での発生状況と秋期の防除対策について

本年度、県内のナシ産地において、これまでチュウゴクナシキジラミの発生が確認されていなかった地域で新たに発生が確認されました。また、既に発生している地域でも、本種の寄生が多い圃場がみられます。

本種が秋期に発生すると、越冬して翌年の多発生につながりますので、下記を参考に本種の防除を徹底してください。

記

1. 県内での発生状況

- 1) 本年の9月上中旬に、これまで未発生であった県中部地域の全11圃地を調査したところ、1圃地で成虫及び幼虫の寄生が確認され、発生地域が拡大している。
- 2) 既発生 of 県北西部地域においては、的確な防除によって本種の密度は多くの圃地で低く抑えられているが、一部で寄生が多い圃地がみられる(表1)。

2. 防除対策

- 1) 発生を確認していない地域では、葉におけるすす病や黄化、幼虫が分泌する甘露及び落葉を目安として、本種の早期発見に努める(図1)。
- 2) 発生地域でも、圃内をよく観察して発生状況の把握に努め、発生がみられる場合は表2の登録薬剤を参考に薬剤防除を行う。
- 3) 本種は成虫で越冬し、2月下旬頃から再び活動を始めるため、特に多発圃では秋期の薬剤防除を徹底し、越冬個体の密度低減を図る。

表1 県北西部地域のナシ園におけるチュウゴクナシキジラミの寄生葉率

調査月日	圃地(A~H)における寄生葉率(%)							
	A	B	C	D	E	F	G	H
10月9日	19.5	7.5	14.5	0	15.0	1.0	8.0	46.5
10月15日	-	-	-	-	-	-	22.5	33.5

※各圃場200葉調査。「-」は調査未実施を示す。

表2 チュウゴクナシキジラミに登録のある薬剤※

薬剤名 (成分名)	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
アクタラ顆粒水溶剤 (チアメトキサム)	3,000倍	収穫前日まで	3回以内	カメムシ類等にも登録あり 200～700リットル/10a
アドマイヤー水和剤 (イミダクロプリド)	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内	カメムシ類等にも登録あり 200～700リットル/10a
コルト顆粒水和剤 (ピリフルキナゾン)	4,000倍	収穫前日まで	3回以内	アブラムシ類等にも登録あり 200～700リットル/10a
ダントツ水溶剤 (クロチアニジン)	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	シンクイムシ類、カメムシ類等にも登録あり 200～700リットル/10a
ディアナWDG (スピネトラム)	5,000倍	収穫前日まで	2回以内	シンクイムシ類、ハマキムシ類等にも登録あり 200～700リットル/10a
ベストガード水溶剤 (ニテンピラム)	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内	カメムシ類にも登録あり 200～700リットル/10a

※表中の農薬登録情報は平成26年10月21日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新情報を確認する。

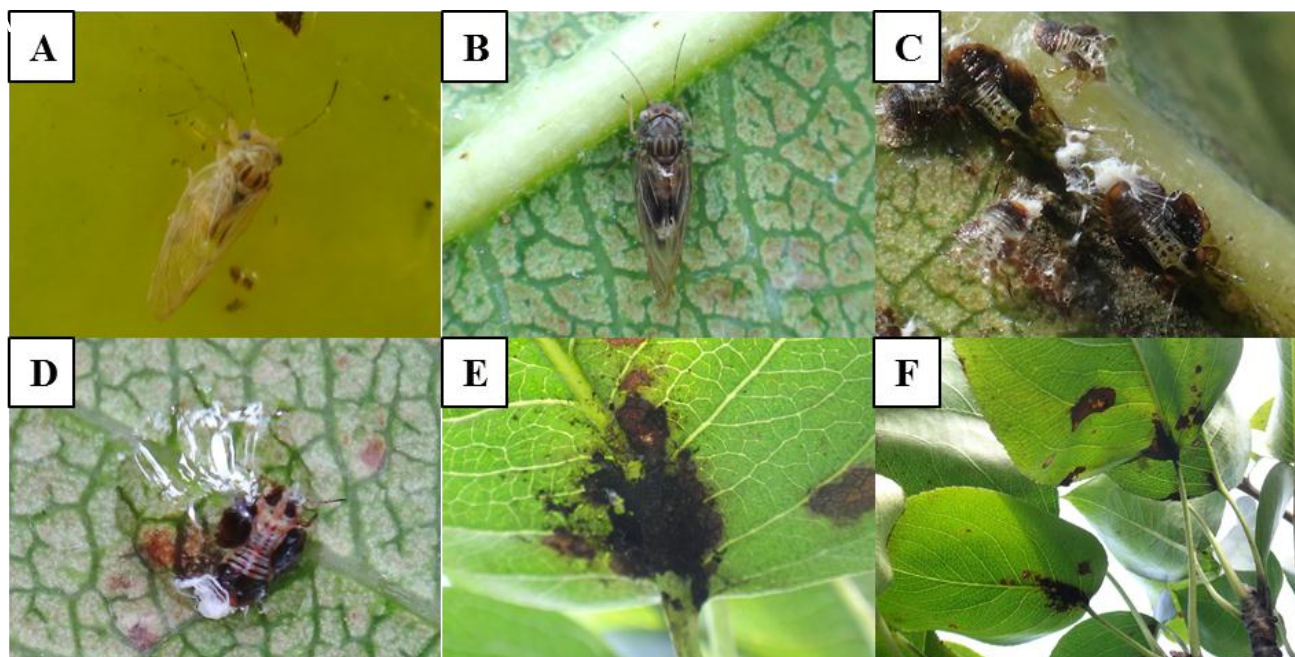


図1 本県で秋期に確認されたチュウゴクナシキジラミ及びそれによるナシへの被害

A：粘着トラップに誘殺された成虫（夏型と冬型の間中型） B：成虫（冬型）

C：葉裏に寄生する幼虫 D：幼虫及び甘露を含む排泄物

E～F：甘露を含む排泄物から生じた葉のすす病及び褐変症状